例大祭奉仕の猿田彦（伊藤翔摩君）と吉田中学校生との記念写真

延喜式外社の三石神社

三石神社宮司　小林友博

師走の候、氏子崇敬者の皆々様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、三石神社の神はもと往来の神・雪気の神と呼ばれていた。当社の創始由緒を簡単に述べると、神功皇后摂政元（二〇一）年二月、凱旋で皇后の御船は難波をめざして進行中、務古の水門（務古水門は今の和田岬より駒ヶ林までの湾曲した海浜の総称、中世には大輪田の泊と称する）で御船は海中を廻って進むことができなかったので、和田岬に上陸して三つの石を鼎立させて、船が進まないことを神に占ったところ、天照大神の教えにより広田の神たちをその地に祀り、穏やかに御船は進んだという。その占いの地に神を祀り、行き交う船を守護する大輪田泊の鎮護として往来の神と名付けられた。往来の訓がユキケであるので、後に雪気の漢字をあて雪気の神と称した。これが当社の創始である。本居宣長も『古事記伝』の中で、「言の同じきままに通わして、字には拘わらず書けるは古の常なり」と書いている。時代は下り、清和天皇貞観元（八五九）年三月、当社雪気神に従五位下の神階を授けられたと、『日本三代実録』に記されている。文禄二（一五九三）年には、神功皇后の三つの石を建て占った故事によって、雪気の神を三石大神と改め現在に至っている。

そこで表題の「延喜式外社」とは聞きなれない言葉であるが、『延喜式』編纂当時、明らかに存在していても、その『延喜式』神名帳に記載されていない神社で、六国史（古代日本の律令国家が編纂した『日本書紀』・『続日本紀』・『日本後記』・『続日本後記』・『日本文徳天皇実録』・『日本三代実録』の正史をいう）に記載されている神社をいい、国史現在社、国史所載社、国史見在社ともいう。「六国史」記載の神社のなかには『延喜式』神名帳に記載されていて重複する神社もある。しかし式内社には記載なく「六国史」にのみ記載があるものを「延喜式外社」というのが習わしである。式外社の有名なものに石清水八幡宮（京都府八幡市八幡高坊鎮

発行所
三石神社社務所
神戸市兵庫区
和田宮通3丁目2-51
TEL (078)671-2531
FAX (078)671-7667
E-mail info@mitsuishi.or.jp
URL http://mitsuishi.or.jp

○ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
○お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
○お神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

座）、大原野神社（京都府京都市西京区大原野春日町鎮座）、香椎宮（福岡県福岡市東区香椎鎮座）、八坂神社（京都府京都市東山区祇園町鎮座）、北野天満宮（京都府京都市上京区馬喰町鎮座）などがある。

ところで『延喜式』とは、醍醐天皇延喜五（九〇五）年、天皇の勅を奉じた藤原時平（平安時代前期の公卿、摂政関白太政大臣）らが、弘仁式・貞観式の二式を集大成して新しい式の編纂にあたったが、時平の死去により、それを引き継いだ藤原忠平（平安時代中期の公卿、時平の弟、関白太政大臣）らによって延長五（九二七）年十二月二十六日に撰進された式をいう。

そもそも神祇制度は奈良朝のはじめごろから制度が整ったとされるが、朝廷の崇敬にあずかる官社帳もあり、その都度これらの神社に奉幣（朝廷が幣帛を奉ること、幣帛は神に奉献する神饌以外のものの総称）していた。更なる神祇制度確立のため、全国の天神地祇を網羅した新たな神祇官社帳の備えが必要となり、社名を国郡別、社格別（大・小）、祭儀の種類別に列記して作成された官社帳が、『延喜式』編纂で神名編として集録された。これが『延喜式』神名帳である。

その神名帳の神祇九には「神名上」として、宮中・京中・五畿内・東海道の諸社を、神祇十には「神名下」として、東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海道の諸社を載せ、その天神地祇の総数は三、一三二座で、うち神社数は二、八六一所である。現在の神戸市関連の神社は、神名帳による摂津国の菟原・八部・有馬の三郡に属し、菟原郡には河内国魂神社（灘区国玉通三丁目鎮座）、保久良神社（東灘区本山北畑鎮座）の二社、八部郡には生田神社（中央区下山手通一丁目鎮座）、長田神社（長田区長田町三丁目鎮座）、汶売神社（現・敏馬神社、灘区岩屋中町四丁目鎮座）の三社、有馬郡には有馬神社（現・有間神社、北区有野町有野鎮座）、湯泉神社（北区有馬町鎮座）の二社、計七社が載せられ、これらの神社には官幣もしくは国幣が奉られ、「延喜式の内に登載されている神社」という意味で、「延喜式内社」または単に「式内社」、「式社」、「官社」といって重要視された。

さて、当社の「延喜式外社」のことについては、前記由緒でも述べたが、「六国史」の『日本三代実録』清和天皇貞観元（八五九）年三月の条に、「廿二日戊寅、摂津国正六位上雪気神に従五位下を授けき」と見え、従五位下の神階を授けられている。時代は下がるが、江戸時代の文化九（一八一二）年二月に、八劔神社（千葉県習志野市鷺沼鎮座）の吉野神主の著した『式外神名考』が刊行された。書名の通り『延喜式』神名帳に記載がなく、「六国史」に記載された神社を網羅した書である。体裁は神名帳に準じているが、各項目には「式外」と記されている。その摂津国式外の条で、現在の神戸市関連の神社は、高林神社（所在不明）と当社で、「雪気神社　貞観元年五月、授従五位下」と見える。

このように「延喜式外社」は従来より古社としての由緒を示す神社として、「式内社」とともに重んじられている。「延喜式外社」である三石神社を氏子崇敬者の方々も誇りにしていただき、今後ともご崇敬いただきますようお願いいたします。

平成二十七年十一月

七五三詣祈祷斎行

十一月中、七五三詣祈祷を斎行した。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やオモチャ・風船・おみやげセット等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけるよう設備しています。

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。

特設スタジオでの記念写真

第六分団小型ポンプ操法大会 必勝祈願参拝　三位入賞

一日、神戸市北区にある市民防災総合センターで、第十二回神戸市消防団小型動力ポンプ操法大会が開催され、地元の兵庫消防団第六分団が第三位入賞した。

神戸市には各消防署管轄区域ごとに消防団が設置されおり、兵庫区（兵庫消防署管内）には兵庫消防団として、六つの分団があってそれぞれ担当地域を持っている。地元第六分団はおおむね吉田中学校区を担当している。

各団員は本業を持ち、日頃はその仕事に従事しているが、いざ火災や災害時等には真っ先に現場に駆けつけ、消防士の補助や地域住民の救助・安全を守る活動を行う。団員はいざという時の為に日頃よりさまざまな訓練をしている。第六分団も毎月第三日曜日午前九時から和田岬小学校グラウンドで訓練を行っているが、火災消火のための小型動力ポンプ操法も必須訓練の一つである。

大会に先立つ十月二十五日、高口兵庫消防団長、釜須第六分団長ほか十四名が、神戸市小型動力ポンプ操法大会必勝祈願の為当社に参拝し、代表者と指揮者清水団員が玉串拝礼した。大会当日は参拝ご利益もあって出場二十三分団中見事第三位に入賞した。

また三月二十日には、和田岬小学校校庭で、第六分団に配置された新型の小型動力ポンプの入魂修祓安全祈願祭が第六分団員でもある禰宜の奉仕により斎行された。

区民広報紙「ひょうご」十二月号に掲載された第六分団

平成二十七年十二月

当社銅像が三県の新聞に掲載報道される

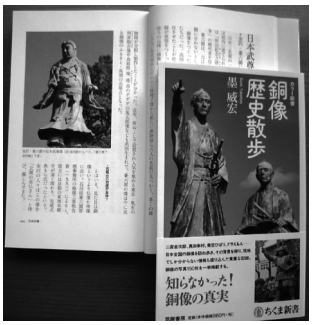
十二月下旬、東京都在住のフリーライターである墨（すみ）威宏（たけひろ）氏から封書を頂戴した。その内容は、共同通信社の子ども・教育用の配信企画「銅像歴史さんぽ」への写真使用御礼と、二〇一一年八月から四年間、計二〇〇回続いた新聞掲載が終り、掲載紙の整理も出来たので、その写真付記事の掲載紙が同封されていた。

掲載新聞は、平成二十四年十二月二十一日発刊の徳島新聞、平成二十五年一月十五日発刊の岐阜新聞、同年四月二十四日発刊の熊本日日新聞である。三新聞共に「銅像歴史さんぽ」欄に「神功皇后」と題した同文記事で、銅像人物にまつわる神功皇后の歴史を簡単に紹介している。

その末尾に「神戸市兵庫区の三石神社に武人姿の神功皇后像が立ちます。」と記され、また写真説明文は「弓や矢、刀などを身につけた勇ましい姿の神功皇后と後の応神天皇となる赤ちゃんを抱く武内宿禰の像＝神戸市兵庫区の三石神社＝」とある。

尚、墨氏の「銅像歴史さんぽ」シリーズ記事は刊本として平成二十八年三月、ちくま新書（ちくま書房）の『銅像歴史散歩』（本体九六〇円＋税）として発刊された。是非ご一読下さい。

がしかし、『銅像歴史散歩』に当社の記事が掲載されていないので著者に質問したところ、出版社から有名どころをセレクトしてほしいとの指示だったので、泣く泣く神功皇后記事が掲載できなかった。いずれ『古事記』・『日本書紀』関連の銅像記事をまとめて出版したい。その際は勿論神功皇后関係記事掲載するとのこと。この度は残念であったが、今後を期待したい。



三新聞に掲載された当社の神功皇后像

平成二十八年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭斎行

ご神前での一絃琴演奏奉納

正月三日、「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者三十一名の参列のもと厳かに斎行され、今年一年の参列者各位はもとより、氏子崇敬者更に各事業所の安寧と繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、一絃琴の献奏である。一絃琴は古代琵琶と共にペルシャから伝わった楽器で、一枚の板に一本の弦を張った簡素なものであるが、近年は漆塗りに螺鈿を嵌め込んだ豪華模様の物もある。川西市在住で一絃琴の師匠である坂上順子先生による、正月に相応しい鶴亀のひき語りを献奏していただいた。

鶴亀の詞は、「栄えゆく　君が千歳を寿ぎて　常盤の松の色　まさりけり　ある日　西八条坊門南の　清盛館の門前に　仏と名乗る　美しき白拍子　訪ね来て　我　天下にもてあそばるると　云えども　当時　めでとう栄え　させ給ふ　平家太上入道殿へ　召されぬ事こそ　本意なけれ　遊び者のならい　何か苦しかるべき　推参して見ん　と清盛殿への目通り申し入れける　入道　やがて出であひ　対面し給ひて　仏御前歌うなり　君を初めて見る折は千代も経ぬべし姫小松　御前の池なる亀岡に　鶴こそ群れて遊ぶなり」と、白拍子の仏御前が清盛の館で、清盛に初お目見えした時に詠ったもので、後に曲としてまとめたものである。

鳥居前での記念写真

一絃琴の音色に魅せられて四十余年。その清雅な響きに、平家物語を添わせてみたい思いにかられ、一絃琴による平家物語引き語りを始めたとする、坂上先生の演奏に参列者も盛大な拍手を送った。

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り直会に入った。

平成二十八年三月

最新型木工加工機械設置　修祓安全祈願祭斎行

四日、兵庫区材木町一丁目の㈱三栄で、木工カット加工機械更新設置修祓安全祈願祭が斎行された。

㈱三栄は昭和二十五年に木工所として会社設立し、その後不動産部門も設立したが木材輸入・原木現地挽製品製材・低圧メラミン化粧板カット加工等の木工部門では、二十一年前に設置していた木工カット加工機械が老朽化したため、この度ドイツ国ホルツヘル社の低圧メラミンパーティクルボードをカット加工する最新型精密ランニングソー機械を設置し、更なる木工作業の効率と社運の隆昌のために設置されたものである。

当日は服部社長を始め社員また機械輸入設置業者らが参列し、各代表が玉串奉奠し、社長がお神酒を以って機械のお清めも執り行い、今後の安全と繁栄を祈願した。

導入設置された最新型精密ランニングソー木工加工機械

平成二十八年五月

例大祭と神幸式斎行

二十日金曜日、午後六時からの例祭には、区内神職のご助勤奉仕により、総代始め氏子崇敬者二十八名の参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納して厳粛に斎行した。後、会館二階にて三菱電機神戸製作所の柳瀬総務課長の来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。

二十一日土曜日午前八時より、各地区お旅所の入魂修祓式を斎行し、午後一時半より、地区総代・氏子役員・自治会関係者の指導により、子供みこし四基が神輿唄を声高らかに唄いながら氏子町内を巡幸した。

尚、例年通り事故の無きよう各子供みこしには自社雇のガードマンや、兵庫警察署派遣の多数の警察官らが警備と交通整理にあたった。

二十二日の日曜日、五月晴れに恵まれ、例大祭最大の神事である神幸式が賑々しく斎行された。午後二時前より中央区海岸通五丁目の伊藤翔摩君（二十一歳）扮する猿田彦の勇壮な踊りに続き、直垂装束姿の総代や、保護者に付添われた九名の可愛いお稚児さんも行列に加わり、和田岬小学生達の直垂装束の神宝持役十四名、吉田中学校生男女五十八名（男子二十八名、女子三十名）による本神輿舁上げ役、化粧をした宮司太刀持役である兵庫区笠松通七丁目の凩虎之介君、そして各地区子供みこし四基、総勢約二〇〇人の神幸式大行列が出発し、約二時間半かけて氏子内を巡幸した。沿道見学の氏子の人達も、黄色い声を張り上げる女子中学生の参加した本神輿行列に元気と希望をもらったと感謝していた。

午後六時から、会館二階にて神幸式奉仕の総代始め氏子三地区の人達又猿田彦会員達の出席による合同直会が開催され、無事神幸式が斎行できた喜びで盛り上がっていた。

地元の笠松商店街振興組合によって五月二十七日発行された、神戸和田岬笠松商店街かわら版「かさまつ商店街マンスリーニュースかさまん」に当社の例大祭神幸式に関する記事が例年通り掲載された。

内容は猿田彦の踊りと中学生の担ぐ神輿等の六枚のスナップ写真のほか、〝三石神社「神幸式」一年の幸せを祈願〟と題し、簡単な神社の由緒、御祭神と猿田彦の説明が記され、「去る五月二十二日、和田岬のまちに初夏を告げる恒例行事、三石神社の神幸式が執り行われました。天狗のような顔をした神様猿田彦を先頭に、地元の若者や子供たちが担ぎ・引っ張るお神輿がまちを闊歩しました。清め歩かれた地域には、良い一年が訪れると伝えられています。まちの歴史と文化を語り継ぐことこそ、まちづくりの基本。笠松商店街としてもこれを心に止め、にぎわいづくりを進めていきます。」と記されている。

また、本年二月発行の、吉田中学校ＰＴＡ広報紙「よしだ」第八十号に、昨年（平成二十七年）斎行の例大祭本神輿奥丁奉仕での真面目な顔の男子生徒、ピースサインを出す笑顔の女子学生の写真も掲載された。

スタジアム前での記念写真

吉田中ＰＴＡ広報紙

笠松商店街かわら版

平成二十八年六月

和歌山県海南市へ氏子崇敬者親睦旅行

近頃、いつ起きてもおかしくないとされる南海トラフ大地震警戒報道を耳にする。そこで本年は津波防災教育センターでの学習を兼ねての、和歌山県海南市へ日帰りバス旅行を実施した。

十二日、宮司・禰宜を含め氏子崇敬者二十八名（北部氏子会十二名・南部氏子会六名・東部氏子会五名・猿田彦会二名・崇敬者一名）の参加のもと、先ず当社の御祭神でもある神功皇后を祀る淡島神社を参拝した。

伊勢部柿本神社での記念写真

同社は雛流しの神事で有名で、拝殿には所狭ましと雛人形・市松人形がぎっしりと並んでおり、参加者も幻想的・神秘的な雰囲気に呑まれたようであった。次に伊勢部柿本神社に正式参拝し、宮司に続き高田総代が氏子崇敬者を代表して玉串奉奠した。

この伊勢部柿本神社は元伊勢神社である。元伊勢とは、伊勢神宮が現在地に鎮座する前には天皇の皇女が大神の御杖代（みつえしろ）となって各地を巡幸した際、一時的に祀った神社のことで、紀伊国の奈久佐濱宮（なくさのはまのみや）もその一つですが、その地は高波や津波の恐れがあることから、いつの頃からかこの日（ひ）方（かた）東山の中腹、すなわち現在の地に遷座し、従四位伊勢部柿本大神と讃えられたという。

しかし天正年間の豊臣秀吉の紀州攻めにより社殿が焼失、慶長九（一六〇五）年に近隣の二社も合祀して再興し、現在に至るという。

旅行の楽しみに昼食がある。海南商工会議所一Fのお食事処「ぎんれい」の奥座敷で、女性にはボリューム満点の会席料理を満喫しつつ、男性は伊勢部柿本神社からのおさがりの地酒が美味いと回し飲みして上機嫌であった。

食後は雨天となったが、近くの紀州の伝統産業である漆器を展示即売している紀州漆器伝統産業会館「うるわし館」を見学、漆塗りした自転車や単車などに驚嘆しつつ手頃な漆製品を購入していた。次に有田郡にある「稲むらの火の館・濱口記念館」を見学した。

この館は安政南海地震津波（安政元（一八五四）年）の際、庄屋・濱口五兵衛は地震の後海水が沖へ引いてゆくのを見て、津波の来襲を知り、自分の田の稲の束（稲むら）に火をつけて村人を引きつけて、津波から村人を救い、後に私財を投じて防潮堤をも造ったことから、地震後の津波への早期非難の重要性の教訓となった。その濱口の偉業と精神、教訓を学び受け継いでゆくために建てられた館内で津波災害から命を守る「応急」、「復旧」、「予防」の三つの知恵を学び、三D津波映像シアターでは地震津波の恐ろしさとその威力を学んだ。

帰路、黒潮市場で買物などをし、無事帰神した。

禰宜が熊本地震復興支援活動に参加

禰宜が神道青年全国協議会主催の第三次熊本地震復興支援活動（近畿・中国・四国地区より約五十名参加）に参加した。県下からの参加者十七名共々に、十二日の夜、レンタカーに分乗して出発した。

この活動は、熊本地震による被災神社の尊厳維持・危険除去と安全確保を目的とし、倒壊社殿解体除去作業を奉仕するものである。阿蘇山はいたるところで山崩れが見られ、阿蘇市車帰地区も激震地で、地震発生から二ヵ月過ぎたが町内では倒壊家屋も見られ、余震もあってか全く復興が進んでなく、道路も迂回しながらの熊本入りであった。

十三日午前より、大型重機・トラッ

車帰菅原神社での復興支援活動

ク等を境内に入れることのできない立地場所に鎮座する阿蘇神社兼務社（車帰菅原神社）の拝殿、神殿の解体（小型重機・二tトラック使用）、瓦礫撤去搬出、境内片付け清掃等が、ほとんど手作業で二日間に亘り実施された。

十四日午後に作業を終了し解散した後、甚大な被害を被った阿蘇神社を視察参拝して帰神した。

ただし、神戸市内からは二名の参加で、阪神淡路大震災で他府県から多くの支援を戴いた地区として残念であった。

三菱電機の新工場竣工式斎行

二十三日、三菱電機㈱神戸製作所構内で五十八名参列のもと、二一七棟の新工場竣工式が斎行された。

二一七棟は既存建屋であったが、此度プラント向け制御装置の試験エリア拡大の為、旧建屋を解体して新たに鉄骨造六階建延床面積約二三、三六八㎡の新工場建屋を建築するもので、平成二十七年六月十二日に起工地鎮祭を斎行し、工事も事故無く順調に運び本日の竣工式を迎えた。

当日は建築主の三菱電機㈱菊池常務執行役社会システム事業本部長をはじめ施工者である清水建設・東急建設・菱神テクニカ共同企業体、また㈱弘電社、三菱電機冷熱プラント㈱の参列を得て、前記各会社代表者が玉串奉奠して、長期に亘った工事の無事故・無災害を感謝し、新二一七棟の今後の安全と事業の繁栄を祈願した。

新二一七棟竣工式祝詞奏上

新二一七棟建屋

平成二十八年七月

夏越祭（夏祭り）斎行

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞嗚大神の夏越祭を斎行した。

十七日午後六時からの殿内祭典には、日曜日とあって会社関係の不参もあったが、総代・氏子崇敬者十七名の参列のもと、例年通り上野順子琉球舞踊研究所神戸支部員による琉球舞踊二曲（貫花（ぬちばな）、かたみ節）が神前奉納された。

貫花は愛しい人に花輪を作ってあげる女心を表した、明治時代にできた雑踊（ぞ）りで、前半は貫花を手に持ち優雅に踊り、後半は四つ竹を打ち鳴らしながら、軽快に踊る愛らしい女踊りである。二曲目のかたみ節は祝い歌で、「かたみ」とは物事をうまく固める、まとめるという意味で、貴方と私の情愛をかためましょう、七福神の神が全部揃い、いつまでも遊び楽しみ、笑顔を絶やさないようにとの歌で、扇子を両手に持って踊ります。この琉球舞踊神前奉納の後、参列者代表各位が

茅の輪くぐり神事

神前奉納の琉球舞踊

玉串奉奠した。

更に、境内に設けた「大茅の輪くぐり」神事では、宮司・禰宜に続き参列者一同が「蘇民将来、蘇民将来」と唱えつつ左・右・左と三度くぐり夏の無病息災を祈願した後、会館二階にて参列議員の挨拶・乾杯発声で直会を執り行い、和やかな雰囲気の中、参列者は神職手作りで無病息災のご利益ある「蘇民将来茅の輪守」を授与されお開きとした。

平成二十八年九月

会社事務所兼居宅上棟祭斎行

近年、地鎮祭は執り行うが上棟祭をしない施主・建築業者が多くなったが、十六日、当社を崇敬する㈱神溶並びに神戸溶接興業㈱の両本社事務所兼居宅の上棟祭が斎行された。

建物は重量鉄骨三階建、延床面積約五四三㎡（施行・ヘーベルハウス㈱）で、去る六月四日に地鎮祭斎行後、工事進捗も事故無く順調に推移し、本日の上棟祭を迎えた。

当日の会場は、既に床・壁等の基礎部分の据付が完了しており、内部がうす暗いので投光器を設けた一階での斎行となった。施主の筒井両社長始め工事関係者また家族やその友人等約三十名の参列のもと、切麻による清め祓いの後、施主の「千歳棟、万歳棟、永々棟」の声も高々に振り幣の儀に併せ、棟の元末に位置した工人二人が「おー」と応唱して三度槌打ちを行ない、幣串も三階に据えられ上棟の儀を目出度く執り終え、各代表者が玉串奉奠して今後も事故無く工事も進み立派な両本社事務所兼居宅が竣工するよう一同祈念した。

御幣を振り祈念する施主

神酒拝戴の後、施主から工事人達への御礼挨拶があって、参列者全員に紅白の祝餅が配られた。

MRJ主翼機械加工工場竣工安全祈願祭斎行

二十八日、三菱重工業㈱神戸造船所内で、MRJ（三菱リージョナルジェット）主翼機械加工工場の竣工安全祈願祭が斎行された。

三菱重工業㈱は地方空港と拠点空港を結ぶ小型ジェット機（座席数百席未満）の本格的開発生産販売を開始した。戦後日本の旅客機開発はYS―11以来約四十年ぶりである。

事業主は民間機事業部で、平成二十七年十一月に起工地鎮祭を斎行し、菱重ファシリティー&プロパティーズ㈱の設計・施工による鉄骨造で、主にMRJの主翼機械加工等を行なう新工場が建設竣工したものである。

竣工したMRJ主翼機械加工工場

当日は工場内に紅白幕で仕切った祭場を設け、祭主の髙口民間機事業部部品工作部長を始め、新工場関係来賓・施工会社等約四十名参列のもと、各代表が玉串奉奠して今後の安全と事業の隆昌を祈念した。

報道によればANAを始め国内外から既に四〇〇機以上の受注を受けているという。神戸空港でのMRJ離着陸を一日も早く見たいものである。

尚、竣工式に先立つ一日、当社に

MRJ（三菱航空機㈱提供）

於いて新工場における部品工作部現業作業開始に伴う安全祈願のため、遠藤地域統括責任者他二十四名が参拝した。

スタジアム芝張替竣工式斎行

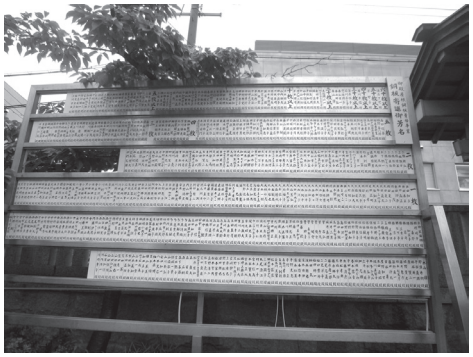
三十日、ノエビアスタジアムである神戸ウイングスタジアム㈱の芝ピッチの芝生張替え工事竣工修祓安全繁栄祈願祭が斎行された。

神戸ウイングスタジアムでは、スタジアム構造上、天候による寒暖や日照時間関係から、毎年九月に夏芝生から冬芝生への芝張替え工事を

スタジアム内での神事

社殿屋根葺き替え事業・銅板御寄進者ご芳名

（含　申込・分納・追加、平成二十七年十一月から平成二十八年十月末日まで）
順不同・敬称略



境内の奉賛芳名掲示板

銅板寄進案内板

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、五十五年となります。銅板の寿命は約五、六十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆々様に**銅板寄進（一枚二千円）**をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げたくご案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

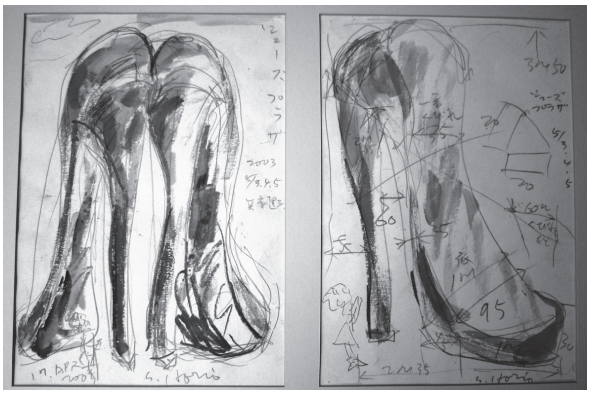
新生児命名

平成二十七年十一月から
平成二十八年十月まで

シリーズ 社務所・境内紹介

『赤い靴オブジェの構想原画』

左の絵は、地元の神戸市兵庫区居住で三菱重工に勤務しつつ精力的に美術活動を続け、退職後も「あたりまえのこと」をテーマにして年間一〇〇回近い個展・グループ展・パフォーマンスイベントなどをこなし、海外でも個展を開くなど超人的な造形・具体美術作家である堀尾貞治氏の作品である。



シューズプラザ前の赤い靴オブジェ

御崎ふれあい広場の堀尾氏作品

絵画の本紙は、縦三八×横二七㎝の画用紙二枚に、鉛筆で斜め前から、真後ろからのオブジェ用赤い靴が各一枚に描かれ、赤い靴オブジェの寸法であろうか三m五〇、二m三五、底一m、一番くびれ三五などのサイズを記し、シューズプラザの文字と日付の17APR2003や、作品展示される日付と場所であろう5／3・4・5、兵庫運河と書かれ、更にS・HORIOのサインが入っている。本絵画は当社会館に常時掲示されている。

さて、神戸市長田区細田町七丁目のシューズプラザ前には、フランスのオリヴィエ・ジェルヴァル作の鉄製赤いハイヒール作品が屋外展示されている。その作品は元々東京の恵比寿ガーデンプレイスに展示されていたが、老朽し撤収することとなり、それを知ったシューズプラザが譲り受け補修を成し、震災からの復興と「くつのまち」とも呼ばれている長田区の活性化を目的として平成十二（二〇〇〇）年に設置展示したものである。

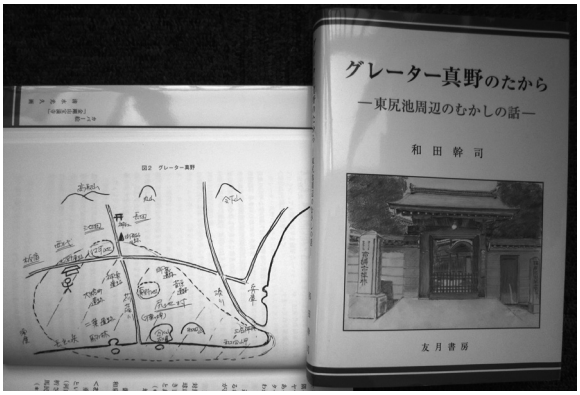
この堀尾氏の赤い靴原画は、シューズプラザ前の赤いハイヒール作品を模して、平成十五（二〇〇三）年五月に開催された兵庫運河祭での、赤い靴オブジェを制作するための作品構想原画である。運河祭当日は、ベニヤ板・段ボール・一部布を用い赤ペンキを塗って製作された堀尾氏の赤い靴オブジェ作品は、運河に浮かぶ艀に乗せられ、風の吹くまま上下左右に揺れ、方向を変える動きはまさに具体美術の醍醐味で好評であった。

尚、神戸市兵庫区御崎町二丁目二の御崎ふれあい広場に二〇〇二年設置された野外彫刻「水形連動」も堀尾氏の作品である。

シリーズ　書籍に見る三石さん

『グレーター真野のたから ―東尻池周辺のむかしの話―』

本書は友月書房から二〇一三（平成二十五）年一〇月に発刊（定価一五〇〇円）されている。著者は神戸生まれで長田区東尻池町居住の和田幹司氏である。



書籍名のグレーターは、広い・広域・偉大の意があり、上古真野の地域は広かったので（東は兵庫区和田岬くらいから須磨区手前あたりまで）、グレーターを冠したと思われる。

さて、本書冒頭の「A弥生・古墳時代」の〈三石神社も皇后関連です〉の条に、「神功皇后を記念するものとして、グレーター真野には「三石神社」が、和田岬にあります。一〇〇年くらい前は、三菱造船所の敷地内、つまり和田岬の先端あたりにあったとのことです。神功皇后が朝鮮半島に戦いにゆくときは、丁度、赤ちゃんがうまれる月でした。臨月をおくらせる「月延石」を三つおなかに当てさらしに巻いて戦場に臨んだという話しです。また、半島からのかえり、和田岬に上陸され、広田、生田、長田に三つの神を置くようにといわれたから「三石神社」とよばれたという説もあります。」と記され、神社には神功皇后の像もあると載っている。

あとがきには「グレーター真野のとっぱしに「三石神社」をさも〝わがもの〟という感じで扱っていいも

のか自信がありませんでした。ワダカン（著者の別称）がこの本を書きながら、勉強できたのは、林田村とか林田区の存在でした。そう「林田区三石通」であったことがはっきりしました。」と書いている。また、はじめの欄で「ワダカンは郷土史の研究者ではありません。先人・先輩が残してくれた話題をつなぎあわせただけのことです。」と述べているが、自分の町の歴史は都市化、居住者の移動流入により、誰かがまとめなければ忘れ去られてしまう。この本は狭義で言えば郷土史、郷土歴史書であり、広義で言えば一種の地方史であろう。

ご関心のあるお方は是非ご一読下さい。

平成二十九年の神社神事・行事予定

一月　一　日　歳旦祭（初詣）
一月　三　日　氏子崇敬者繁栄祈願祭
（きたがわ　ともこ先生
オカリナ演奏奉納）
五月二十六日　例大祭
二十七日　地区子供みこし巡幸
二十八日　神幸式（おわたり）
六月　十一日　氏子崇敬者親睦旅行
七月　十七日　夏越祭
（琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり）
十八日（茅の輪くぐり）
九月二十三日　西宮神社産宮参り
十月　十五日　秋祭（天照皇大神祭）
十一月中　七五三詣
各月　一日　月次祭

三石神社諸祈祷ご案内

【殿内個人祈祷】
（殿内における各種祈祷）
家内安全、病気平癒、安産、初宮詣、七五三詣、学業成就、厄除、交通安全、その他

【会社・事業所安全繁栄祈祷】
（会社・事業所団体祈祷は事前ご予約願います）

【出張祭典】
（諸準備の為、事前ご予約願います）
起工・地鎮祭、上棟式、竣工式、入居清祓式、神棚祭、各種安全祈願祭、その他

印刷所
(有)前川企画印刷
神戸市兵庫区永沢町三丁目三―十
TEL（〇七八）五七七―二四八八
FAX（〇七八）五七七―七二二〇